

第2回奈良県学校・地域パートナーシップ事業研修会 実施報告

- 1 日時 平成27年9月10日(木) 10:00~12:00
- 2 会場 県立教育研究所(田原本町秦庄22-1)
- 3 参加者 110人(地域コーディネーター、ボランティア、PTA関係者、放課後児童クラブ(学童保育)関係者、社会教育関係者、市町村教育委員会事務局職員等)
- 4 内容 10:00~10:05 開会挨拶
10:10~11:40 講演
「地域と共にある学校づくり
~子どもの笑顔を広げるために、
今、私たちにできること~」
関西外国語大学短期大学部 教授 明石 一郎
11:40~11:50 質疑応答
11:50~12:00 まとめ

5 講演概要

① はじめに

学校は、ボランティアや地域コーディネーター等の地域の人々に見守られ、支援されながら成立している。学校とは、地域あつてのものである。奈良や大阪といった地域には「おらが村の学校」という文化が今も息づいている。

② 地域と学校

◇ 医者とボランティアの共通点

- ① 命を守る
- ② 信頼
- ③ 励ます言葉・笑顔

→ 子どもたちが自分らしく生きていくためのサポートを!

◇ 地域の教育力

周囲から大切にされず、見てもらっていない子は、よくないことにブレーキをかけられない。すべての子どもに対して、無視をしないで、声をかける必要がある。

→ みんなで子どもたちを見守り、子育てする地域に!

◇ 子どもが嫌いなこと

- ① 頭ごなしに決めつけられること
- ② 比較されること
- ③ 家のもめごと

→ 「どうしたん?」は、子どもの心を開く魔法の言葉

◇ 元気な子は、出会いやふれあいが素敵な子

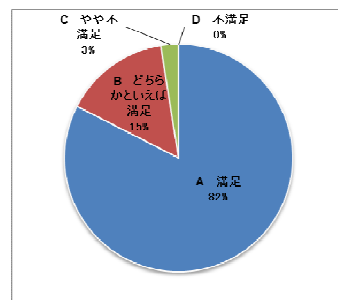
③ 質疑応答

◆ 低学年はこちらの挨拶に回答してくれるが、高学年になるとなかなかできなくなる。高学年の子どもへの挨拶の指導はどうすればいいか。

- ・ 挨拶は求めてしまうとこちらがしんどくなる。
- ・ 相手がどう思おうが、こちらが元気良く挨拶することが大切。
- ・ 返事できない子がいた時、いろいろな事情があるととらえること。



研修の内容は、どうでしたか。



6 感想

- ・ 教育の原点や地域の役割について考えさせられ、得るものが多かった。
- ・ 大変わかりやすく、楽しく聞かせていただいた。コーディネーターのやりがいや大切さを実感した。
- ・ あいさつや声かけなど、子どもたちへの接し方が大切だと感じた。今日の先生のお話を心にとめて、子どもたちにかかわろうと思った。